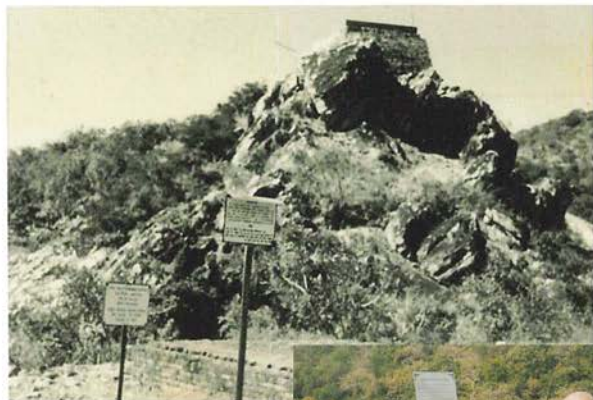


インド・釈尊あれこれ紀行

王舎城



王舎城で有名な仏跡、靈鷲山。
50年前に筆者が撮影した



靈鷲山頂で祈る中国僧

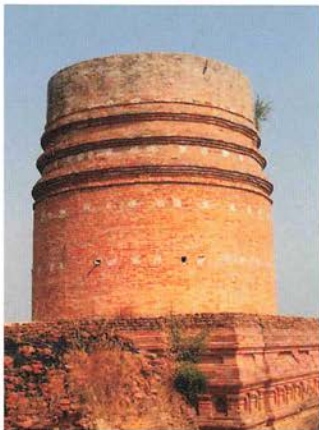
王舎城の悲劇で知られる王舎城は現在のビハール州にある都市遺跡だが、色々の名前で呼ばれ、文献には4種の異なった名前がみられる。マガダ国となる前の紀元前5世紀に栄えた首都で、ピンピサーラ王、アジャータシャトル王が支配していた。この場所については、7世紀にここを旅した中国の玄奘三蔵げんじょうさんざう『大唐西域記』に詳しい。地形的には5つの峰に囲まれた盆地だが、盆地を囲む峰々の頂上には仏教、ジャイナ教、ヒンズー教などの寺院が建てられている。

仏教徒にはその中のギツジャクッタ、靈鷲山が有名だ。山頂で釈尊が法華経など多くの經典の教えを説かれた重要な仏跡である。説かれた經典で有名なのは『法華経』だが、『法華経』は大乗に属する經典なので後世に付加されたものであろう。

『観無量寿経』によれば、アジャータシャト

インド渡航歴40回超!

佐藤良純のインド・釈尊あれこれ紀行 No.9



珍しい円柱形のギリヤク ストゥーバ

現在は仏像が安置されているゴーラ カトラと呼ばれる湖



かつての形を残すバーンガンガー ストゥーバは、タメーク塔の反対側に残る大塔の基壇跡で、ここから仏舎利が見つかっている

ル王によって幽閉され精神的に追い込まれた
ビンビサーラ前王が、はるかに靈鷲山りょうじゆざんを拜み
釈尊に助けを求めたところ、釈尊が空を飛ん
できて監獄を訪れ、前王を慰めたと伝えられ
ている。その監獄跡が残っていて、手錠も発
見されている。また、釈尊の時代の名医とさ
れたジーヴァカの庭園も近くにある。また、
釈尊が度々滞在され説法された竹林精舎はカ
ランダ長者が寄付したもので大きな池があ
る。そして竹林精舎の裏門の前には日本山妙
法寺のストゥーバが建っている。

釈尊が亡くなって後、何回かの比丘たちの
集会(仏典結集)が持たれているが、第一回が
王舎城の七葉窟で行われた。300人が集まっ
たとされるが、今残っている窟は狭く、その
真下にある人の手によって造られた広場がそ
の遺跡であろう。

靈鷲山につながる峰にギリヤク ストゥーバ

王舎城の中心部



王舎城は山々に囲まれている

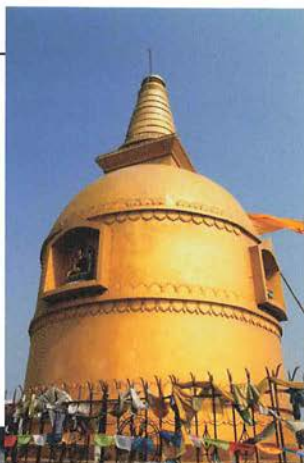


今も残る王舎城の南側の壁

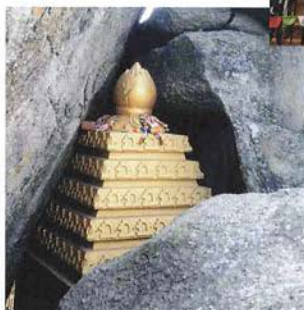
という丘がある。険しい丘を登ると頂上には円柱形の塔、ストゥーパが2基建っている。円柱形の塔は珍しい。また、霊鷲山の麓にはアジャータシャトル王が兵士や馬に水を飲ませたゴーラカトラと呼ばれる湖があり、湖のなかに仏像が安置されている。今ではポト遊びもできる。

王舎城内には人々が使用した馬車の轍（なま）の跡や、解読不能のシャンカ文字が残っている。南門の近くには城内では唯一完全な形で現存するバーンガンガー ストゥーパがある。また、王の金庫跡と思われるソーンバンドルもある。マニアール マートはヒンドゥー教の寺の跡で、神々の像やかわらが散乱している。そして、王舎城にはインドには珍しい温泉が湧き出ている。東西に細長い地域にわたる温泉だが、大きい温泉は王舎城内とジェティアンの西にある。

鶏頭山(グルバ)に建つストゥーパ



霊鷲山山頂でメモを録る筆者



同じく鶏頭山の岩の隙間に建てられたストゥーパ

佐藤良純

大正大学名誉教授

さとうりょうじゅん 昭和7年東京生まれ。大正大学、同大学院、インドテリー大学院に学ぶ。昭和34年より大正大学で教鞭をとり、教授、学科長を経て、平成14年退職、大正大学名誉教授となる。インドへの初渡航は昭和38年、以来インドへ訪れること、40有餘回。著書に「フツタガヤ大菩提寺」、「釈尊の生涯」など多数。

王舎城は南北に石垣で作られた長い城壁があり、北側には新王舎城の跡が残っている。玄奘三蔵は南西の方角、ジェティアンから王舎城に入った。そこで玄奘三蔵は使っていた竹の杖を地面に突き刺したところ、そこから竹がはえ、竹林になったと伝えられている。王舎城の東、車で2時間ほど行った所にグルパと呼ばれる鶏足山が聳えているが、カッサパ尊者が禪定に入られた所で、600段の階段の上に岩の割れ目があり、その先に3メートル位の鉛筆の形をしたストゥーパが建てられている。

霊鷲山や竹林精舎が有名だが、王舎城内外には他にも多くの仏跡が残っている。